京都社会人大学校
北近畿校通信
第60号　2025年　2月
北近畿校運営委員会
事務局発行
☎080-2511-1751

2025年度講座の申し込みは もうお済ですか？

「あ～　忘れていた　もう締め切り過ぎてるがな！」と今お気づきの方、今からでも申し込み受付しますので、今すぐ忘れないうちに手続きをお願いいたします。

今シーズンは「雪多い予報」で、いったいどれだけ…と心配していましたが、当地方はそれほどひどいことにはならずに冬を乗り切れそうです。しかし、北陸・東北地方では観測史上初！の積雪を記録されるところも多く、災害級といわれています。大寒波の後に気温がグッと上がったり、三寒四温も変動が激しすぎますね。こんな状況もあってか 2025 年度も気象に関する講座に期待の声もいただいています。

全講座がさらにみなさんの期待に応えられるよう 2025 年もがんばります。受講をまだ迷っておられる方、ぜひ新年度も受講をお待ちしています。

運営委員も募集中

自分の関心のある講座の運営（受付だけ、記録だけ、など）だけでもかまいませんので、少しお力をお貸しいただけませんでしょうか。また、新講座や取り扱うテーマへのアイディアをお持ちの方、ぜひ運営委員会に出て北近畿校をより発展させるためにご協力ください。お問い合わせは　080-2511-1751　まで。

12月の各講座の概要と、ひとこと感想から

（感想は一部を抜粋したものもあります。ご了承ください）

◆写真講座　12月17日
「1年の振り返り」　　講師：四方智基氏

先生に設定してもらわずに一人立ちできるよう、カメラをいつもそばにおいてカメラとお友達になりたいです。

最後の講座は、前回撮影したかわいいワンちゃんの写真を中心に、受講生のこの１年の写真を見ながら、「きれいね～」「プロみたい」とワイワイ。

自分の「今年の１枚」をその場で大判プリントに印刷していただきました。講座外で撮影した写真も披露され、「どういう状況？」と交流も深まるやり取りで、楽しいひとときでした。

１年間ありがとうございました。すべてが初めてで「分からないことが分からない」状態でしたが、楽しく学ばせていただ

ひとりで気ままに撮影するのも好きですが、撮影会でみんなが同じテーマで撮影しても、それぞれがこだわる構図とか光の入れ方とかでちがう写真になるのを見るのは楽しいことでした。

◆時事問題講座　12 月 3 日
「過労死問題」　講師：寺西笑子　氏

突然、夫が自死したと聞かされた時の驚き、疑問、くやしさ…様々な感情が交錯したであろうことは想像できますが、本当の思いは私たちが簡単に理解出来るようなものではなかったはず、重い話です。

打ちひしがれた気持ちを奮い立たせ、労災認定、損害賠償請求、そして国を動かし 2014 年に「過労死取等防止対策推進法」の成立を見るまで取り組み（闘い）の経過について話を聞きました。

苦しい思いをしながら頑張れたのは、他にも同じ思いを持ちながら頑張っている人がいたこと、そして、多くの仲間を得たことだと。

過労死防止法の施行後も、過労死は減るどころか今なお増え続けているという現実。過重労働にパワハラと相変わらず法令違反の事例が多発しており、寺西さんの闘いはまだまだ終わりそうにありません。私たちもこの列に並ばないといけないと思いました。

最後に、遺族からのメッセージ。

・命より大切な仕事はありません。自分の命と大切な人の命を守ってください。

・一人ひとりが働き方を見直すことを心から願っています。

ねばり強い運動によって、過労死防止法を成立させるまでに至った過程を伺って感動しました。しかし、勝ち取った権利を守っていくためには、たゆみない行動が大切だと思いました。

今日の講座で恥ずかしながら「過労死防止法」の存在を初めて知りました。私の現役の時は、今でいう「ハラスメント」「長時間労働」「サービス残業」は当たり前、会社の文化、伝統でした。皆、疑問なく甘んじていました。幸い過労死になるまでは無かったので、今がありますが。法制度の多大な努力には頭が下がります。

原点は自分の夫だとしても、本当に長い間、過労死の問題に取り組まれ、国をも動かすという結果を作られた事。また、今に生きる者、今後の生きるものへの希望を作ってもらったことに感謝したいと思います。内容はすごくわかりやすかったです。

◆北近畿探訪講座　12 月 11 日
扶桑化学工業を訪ねる

長田野工業団地の扶桑科学工業を訪ねました。

会社のマークはリンゴが描かれていますが、祖業はリンゴ酸やクエン酸づくりから由来しているということです。現在でも世界のトップクラスのシェアと品質を保っておられますが、電子材料事業において半導体部品製造で必要不可欠な研磨材を製造されています。半導体面は平坦化が特に求められています。研磨材の主原料である超高純度コロイダルシリカをナノレベルの粒にまで造るということです。半導体面の製造時に使うという液体の入ったサンプル瓶を見せてもらいましたが、この液体の中には研磨材（ナノレベルの粒）が入っています。この瓶の底に研磨材は沈殿していなくて、これが他社では真似のできない技術だと説明されました。また、このナノ単位の製品をユーザーの要求により 20 種類位の単位で製造されていることにも驚きました。

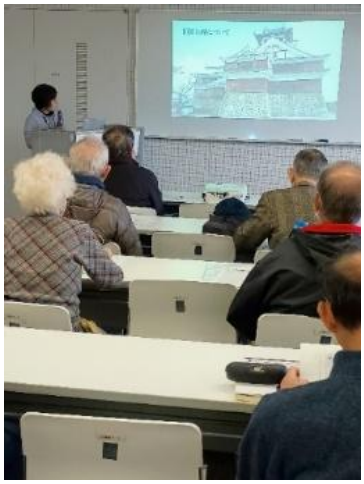
工場見学では全館オートメーション（倉庫も含めて）で冷暖房仕様でした。これは研磨材が 15～30℃の温度を必要とするためで、赤道付近を通過せねばならない輸出品は冷暖房付きの船を使用するということでした。集中管理室や検査室も見学させていただきましたが、どこでも見られるものではなく、感謝です。

最後に。長田野はスゴイ企業ばかりでした。

工場見学は楽しい。ぜひ続けてください。

初めて扶桑化学の工場見学をして、超高純度コロイダルシリカというものを知りました。半導体研磨材の主要原料を量産する工場が福知山にあることに驚きました。

「化学関係」に疎いのでなかなか理解しにくかったですが、福知山にこんなすごい会社があるとは…。



◆歴史講座　12 月 18 日
「福知山城をめぐる歴史について」　　講師：鷲田紀子氏

今回の講座は「福知山城を体感しよう！」ということで、福知山城の歴史と城下町としての福知山について、街中を撮った写真を参照しながら説明を受けた。

福知山城は、天正７年（1579)、丹波一帯を平定した明智光秀によって築城された城である。光秀は、この地にあった横山城を改築し福智山城と改名、近世城郭へと修築したのである。市街地を一望する福知山盆地の中央に突き出た丘陵の先端地にあり、その地形の姿から臥龍城の別名を持つ。光秀は明智藪など治水に力を注ぎ、地元では名君として慕われている。

光秀没後、羽柴秀勝、杉原家次、小野木重勝が城主となり、1600 年関ヶ原の戦い後、城主有馬豊氏の時に現在のような城郭や城下町が整えられた。その後、岡部・稲葉・松平氏を経て、1669 年朽木稙昌が入部し、明治維新までの約 200 年間、13 代に亘って朽木氏が当地域を統治した。

明治４年（1871）の廃藩置県後に廃城となり、２年後の廃城令によって解体され、石垣だけが残った。この石垣は野面積みという方法で積まれており、自然石だけではなく転用石(宝篋印塔他)も使用されている。城門は観瀧寺・正眼寺・法鷲寺・明覚寺の山門になったと伝わる。

その後昭和 60 年代にほぼ往時の形をとどめる天守閣が再建され、福知山のシンボルとなっている。

福知山城の山門がたくさん移築されているのは知らなかったのでそれぞれのお寺へ見に行きたい。４００年前に都市計画されて町ができていたのはすごい！。

あのクランクの意味があることがわかり興味深く聞きました。

◆漢字学講座　12 月 26 日
「やたら難しい漢字」　講師：久保裕之氏

やたら難しいなんて、めちゃくちゃ画数も多いん違うのん？という事で、

①小学校で習う教育漢字で一番画数の多い漢字は、20 画の「議」「護」「競」

②常用漢字では、29 画の「鬱」(うつ)　想像通り！　この文字は、こもっている．充満している様を表している。

③大漢和辞典(日本で一番集録数の多い辞典)では、「龍」を４つ合わせた漢字(てつ．てち)64 画だったり「興」を４つ合わせた漢字があったりする。

漢字にも方言というか、その地方にだけ存在する文字があり、身近な所だと、「岼」(ユリ)山の中にある平らな土地と言う意味で、地名に使われている。綾部で 13 ヵ所。福知山で２ヵ所。南丹で７ヵ所等々。京都市山科では、「椥」(ナギ)　滋賀県では、「綣」(ヘソ)。大阪では、「秬」(キビ)。和歌山では、「椡」(ホクソ)燃えかすの意味。近年では、区画変更等により、その地域でしか見ない漢字などは、消滅の傾向にあるらしい。そう言えば、地名って読めない事いっぱいありますよね。

今年も一年、久保先生にはお世話になりました。来年度は、また違った内容での授業をして下さるとの事、引き続きの受講を、お待ちしております。

色々な字にびっくり!!書けない！読めない！でも面白いです。少し調べて近くをまわりたいと思います。

漢字の読み方、形の成り立ち、意味など、ひとつひとつ意味がある。また、全くあて字など、とても面白く興味深く、頭に残りませんがその時その瞬間、とても楽しく学ばせて頂きました。

白川漢字学には以前から興味を持っており、参加させて頂きました。お陰様で、益々深みにはまりそうです。

◆寄席芸鑑賞講座　12 月 12 日
喜楽館へ

今年最後の寄席芸講座では、新開地の喜楽館へ落語鑑賞に行きました。前回の講師である笑福亭染雀さんから事前にさまざまな情報を教えていただいていたおかげで、さらに楽しむことができました。特に初めて体験した楽屋裏ツアーでは、舞台裏の仕組みや工夫を知ることができ、とても興味深かったです。「なるほど」と思わされる場面がありました。

当日の公演では、８人の演者が次々と登場し、１番太鼓から始まり、開講０番、そしてトリまで、落語はもちろん、スライドショーもあり、会場は笑いに包まれていました。帰り際にはスナック菓子のお土産までいただき、大満足の１日となりました。

また、喜楽館が建てられた経緯や、過去の有名な芸人たちが近所でよく食べていたという食べ物の話なども聞いていたので、とても面白かったです。桂米朝さんがよく通ったというお店で天ぷらそばをいただきましたが、きっと他の方もその足で散策を楽しんだことでしょう。知らない街を歩くのも、今回のこの講座の楽しみの一つです。

帰りのバスでは、受講者同士のおしゃべりも弾み、和やかな雰囲気で帰路につきました。今年最後の講座は、笑いと発見が詰まった素敵な締めくくりとなりました。来年の講座でどんな場所に行けるのか、今から楽しみです！

良い企画を有難うございます。裏方のふだん見れない所まで案内され大満足でした。

初めての喜楽館でしたが、バックステージの見学、落語家さんの説明等、落語以外もたくさん楽しめました。もちろん落語もそれぞれ楽しませて貰いました。移動のバスの中も、昨年より余裕があり、楽でした。